



vol.17 政木優里さん

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーの方々をご存知でしょうか？ JOI情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方に、お仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。

第 17 回目に登場いただくのは、株式会社メンバーズ デブオプスリードカンパニーの DevOps 推進グループに在籍している政木優里（まさき・ゆり）さんです。聞き手は JOI 情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。



株式会社メンバーズ デブオプスリードカンパニー 政木優里さん

スムーズな開発ができるよう、仕組みを提供する仕事

山口 株式会社メンバーズ デブオプスリードカンパニーとはどんな会社か教えていただけますか？

政木さん DevOps導入支援の会社です。クライアントとなる企業様に対し、スムーズな開発の土台となるような仕組みを提供するべく、個人やチームで業務委託を受けたエンジニアが、バックオフィスメンバーの支援を受けながら働いています。

山口 DevOps推進グループに所属されていますが、これは技術を推進するような部署ですか？

政木さん そうですね。お客様に対して、DevOpsの推進支援をしていく事業部です。DevOpsの主なテーマは、開発と運用の連携をスムーズにして、全体の開発をより迅速に

できるようにすること。立場が異なるメンバーでも、一つの目的に向かって協力していくマインドが大切です。扱っている技術分野としては、クラウドインフラやIaC、自動テスト自動デプロイ等が主になります。

また、弊社には週に12%の時間を勉強に当てられる仕組みがあり、金曜日の午後は本を読んで、新しい知識の習得をしています。

山口 政木さんはどんな仕事をしているのですか？

政木さん オペレーション寄りの実務です。サーバの立ち上げや運用をしているのですが、ただ運用するだけではなく、サイトの見た目を整えたり、機能を開発する人にとっても作業がしやすいよう、さまざまなシステムを入れたり、こまめに連携し情報を共有するなどしています。

山口 お客様の要望を聞いて、それに沿ったものを開発・運用するというお仕事ですよね。どこにおもしろみを感じますか？

政木さん お客様にとっての便利さを追求する点はもちろんですが、内部で一緒に働いているメンバーが、もっと便利に早く開発ができるよう、いろいろと工夫できることです。

就職活動に苦戦。第二新卒でエンジニア職へ

山口 最初からエンジニアを目指されていたわけではなく、大学は文系だそうですね。

政木さん はい。就職活動がきっかけでエンジニアを目指すようになりました。もともとものをつくる仕事には憧れがあったのですが、システムエンジニアという仕事は、理系で情報系の学部を出た人しかねないという先入観がありました。それもあってエンジニア職は全然視野に入っていませんでした。最初は企画職など文系らしい職業を受けていたのですが、就活が苦手であまりうまくいかず……。そこから1年くらい苦戦し、第二新卒の際に、スキルも学歴も問わないエンジニアの求人を見つけて、受けてみたのがきっかけです。研修でプログラミングを教えてもらったのですが、すごく面白くて、スムーズに進めること

ができました。勉強が好きだったこともあり、本を読んで理解し、実践して身に付けるというサイクルが、自分に合っていたのだと思います。

山口 分野外のところに飛び込むのはチャレンジングなことですね。

政木さん そうですね。でも正直なところ、就活が本当に苦手で、半分投げやりになっていた面もあるかもしれません。就活で何を言えばいいのか考えすぎて、面接官が求めていることを言おうとしていたと思います。

山口 第二新卒で入社前はイラストレーターの仕事をしていたとか。

政木さん はい。絵は子どもの頃から好きだったのですが、大学生のときに似顔絵を描くバイトをしていたことがあって、バイト先の方に「就活がうまくいかない」と話したら、拾ってくださって、1年くらいイラストレーターをしていました。

大学では映画の分析や研究をテーマに勉強

山口 大学ではどんなことを学びましたか？

政木さん メディア・表象に関する分野で、専攻は映画表象というものでした。映画をつくるというよりは、映画の分析・研究です。人が映画をどのように読み解いてきたのか、歴史の勉強や、シーンがどのようにつくられて、どんな意味があるのかとか、また有名な映画を自分の視点でどう観るか、レポートに書いて提出するような勉強でした。

山口 議論が大事な分野ですね。



政木さん 教授が熱心な人で、どこかで聞いたような適当なことを言うと、すぐに突っ込まれてしまうので、深く考えるようになりました。ここで身につけた論理的に考える力は今も役立っていると思います。

卒論では『メトロポリス』（2001、りんたろう）というSFアニメーション映画におけるセルと3DCGのミックス表現について論じました。手塚治虫の漫画が原作になっていて、巨大な都市を舞台にロボットと主人公の少年の出会いが描かれる作品です。ストーリーも面白く、絵も美しいので、よかったら見てみてください。

本の虫だった子ども時代の夢は、作家や漫画家

山口 出身は埼玉とのことですが、小中高を通して好きな教科はありましたか？

政木さん もっぱら国語が好きで得意でした。小中学生の頃は図書館に入り浸っていて、本や漫画を読んだり、レシピ本を借りて家でおやつをつくったりしていましたね。高校生

のときは進学クラスにいたので、あまり時間が取れず、同じように本や漫画が好きな友達とよく話をしていました。

山口 その頃情報の授業はありましたか？

政木さん ありました。小学生のときはWindows 2000がもう出ていたので、タイピングをしたり、マウスで絵を描いてフロッピーディスクに保存したりしていました。中学生になると、コピーガードやエクセルについて学びました。プログラミングの授業はなかったのですが、小学校高学年から中学校に上がる时候にかけて、ホームページをつくるのがすごく流行った時期があって。特にイラストなどを描いている人は、自分のイラストを載せるためにホームページつくっていたので、そのときに私もHTMLでホームページをつくっていました。

山口 その当時の夢を教えてください。

政木さん 本や漫画を読んでいたので、作家や漫画家に憧れていました。

リモートワークをしながら、趣味の料理も楽しむ日々

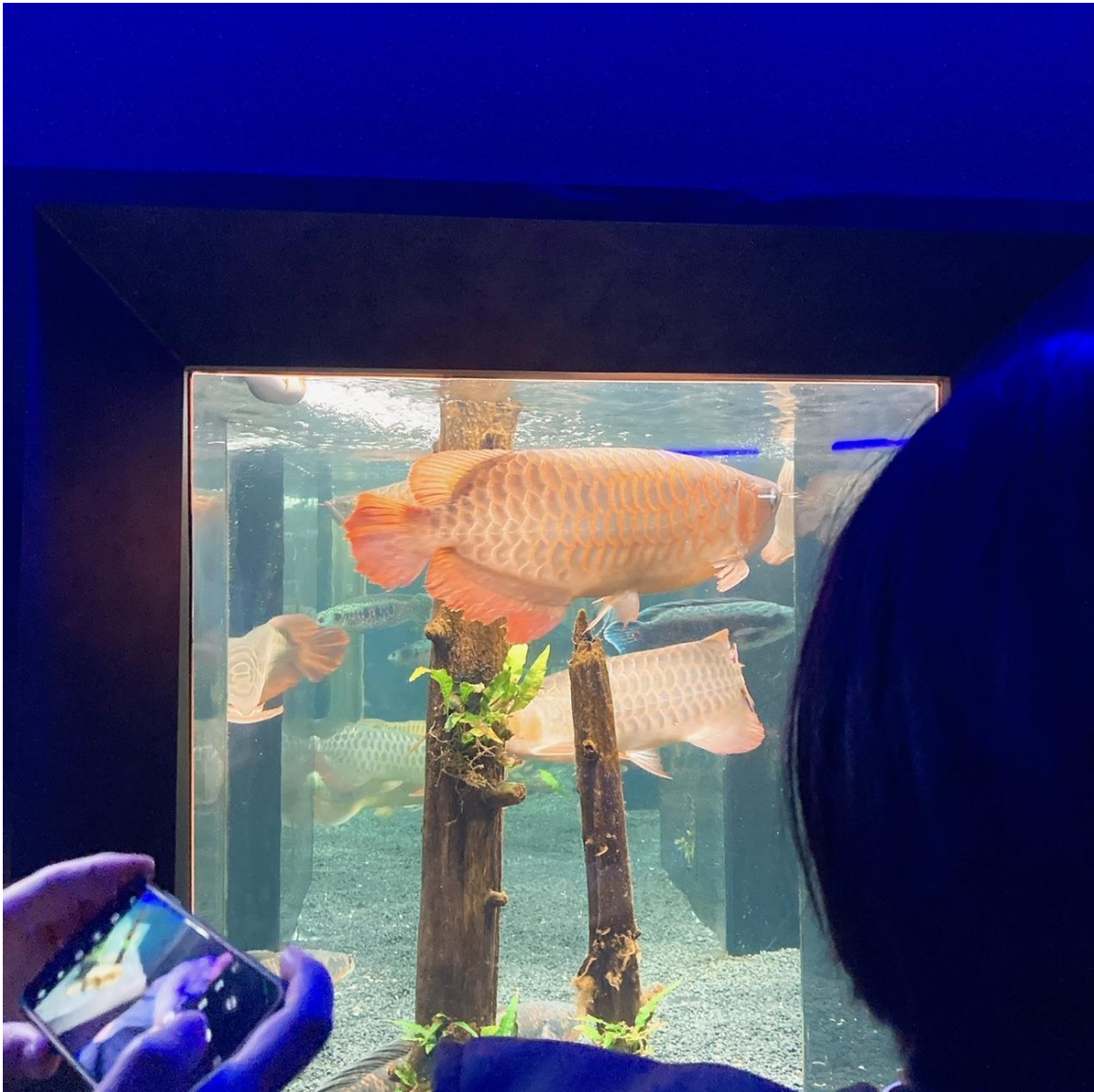
山口 お仕事の話に戻りますが、基本はリモートだそうです。



自宅の作業環境。手前は私物のパソコン。普段パソコン2台とモニター1台で作業。

政木さん はい。家では机が上下する昇降デスクを使っています。ボタンがついていて、腰が痛くなったときなどは机の高さを上げて、立って仕事をしています。仕事で使っているパソコンは2台あって、自社のものと、お客様からお預かりしているものです。仕事をするときは2台を横に広げて、片方をメインで使っているモニターに繋いで、作業を切り替えるときは入れ替えています。

山口 休日は何をしていますか？



アロワナの生態展示を見学

政木さん 水族館、動物園、博物館、美術館など好きで、あちこち行っています。それから料理をつくるのも好きです。料理は平日、仕事の合間にもつくっています。





料理が好きで、料理当番は政木さん。食事からお菓子までつくる。

山口 エンジニアとして目指しているものや今後のキャリアの目標はありますか？

政木さん エンジニアとしては少数派かもしれませんが、何か一つのことを突き詰めるより、好奇心が強いので、マルチな人材になっていきたいです。サーバの立ち上げやプログラムなど、これまで培ってきた技術を組み合わせて、もっと便利でおもしろいものができるようになりたいです。今年は異なるシステム同士の「統合」をテーマに、いろんなサービスや技術に触れてみようと思っています。

山口 最後に、未来のプログラマーへメッセージをお願いします。

政木さん プログラミングが好き、機械やウェブには興味がある、だけど理数科目は正直苦手…という人もいないんじゃないかと思います。確かに、アルゴリズムの実装など、極めるとなると数学のセンスが必要になるものもありますが、高校からほとんど国語、英語、社会しか勉強してこなかった私でも、エンジニアとして働き続けることができます。ぜひ好きなことを続けてもらいたいと思います。

山口 本日はありがとうございました。

【インタビューを終えて】

大学で学んだ内容とは一見違う仕事をしていても、これまでのさまざまな経験が今の仕事に繋がっているということをお話いただきました。完全在宅の仕事ということで、自宅にスタンディングデスクを置いて、フルに活用しているお話も印象的でした。まるで外国の仕事場で働いているみたいです。（山口）

次回もお楽しみに。